

平成26年1月25日

NHK広報局

靱井勝人会長就任記者会見要旨

きょうNHKに来て、親しい人がいなくて、緊張したが、心地よい緊張感だ。私は、「靱井会長でなく、靱井さんと呼んで下さい」と言った。上司をさん付けで呼ぶのは難しいが、コミュニケーションを図るにはいいと思う。

NHKについては、ボルトとナットを締めなおすのが主たる任務だと思う。まず、第1は放送法の順守だ。これに沿って経営にあたりたい。職員も放送法を身近に考え、順守を徹底してほしい。

また、国際放送の充実をしっかりと実行に移したい。さらに、放送センターの建て替えについては、大規模災害を考えると、公共放送として、放送を中断するわけにはいかない。2020年に東京オリンピックがあるので、個人としては、出来上がる時期を前倒しできればと思っている。

(放送法の順守)

放送法をきちっと順守していけば、NHKが、右だ左だ真ん中だと言われることもなく、何の問題もないと私は考えている。放送法によって、政治との距離を保つということだ。

(特定秘密保護法)

個人的な意見は、差し控えたい。(Q. 改めて大型番組で取り上げる必要はないということか) 必要ならばやる。いろんな意見があるし、我々は、政府とピシッと距離を置いてやる。放送法のとおりによれば、政府の言いなりにならない。

(安倍総理大臣の靖国神社参拝)

安倍総理大臣が信念で行かれたということではないか。それをいいの悪いのという立場に私はない。

(いわゆる従軍慰安婦の問題)

会長職としてのコメントは控えたいが、どこの国にもあったということではないかと思う。それは、戦争をしている戦争地域ということだ。慰安婦そのものが、いいか悪いかと言われれば、悪い。日本だけが強制連行したみたいなことを言われているから、話がややこしい。補償について、韓国とは、日韓基本条約で解決していると思う。(Q. 従軍慰安婦問題などについて、個人的な見解を番組に対して、反映するつもりか) ありません。

(放送センターの建て替え時期)

2020年は、私の目標だが、本当にできるかどうかは、時期的にはなかなか難しい。ただ、建て替えなくて、直下型地震が来たといったら、放送ができなくなると我々の義務を遂行できなくなる。

(国際放送)

国際放送は、国内放送とは多少違う。尖閣諸島、竹島については、明確に日本の領土だと主張するのは当然だと思う。政府と見解が真逆になることはありえない。国際放送については、尖閣諸島、竹島も重要課題の1つだが、国内で起きていることなども含めて伝え、日本のプレゼンスをおおいに出していきたい。

(放送と通信の連携)

それに全く触れないで、次期の経営計画を作るのは非常に難しい。技術的、現実的に考えてやるが、急がないと遅れるということは頭にある。放送と通信の連携については、かなり研究が進んでおり、どのように実現していくかということについて、工程表ぐらいできるようにしたい。

(以上)